



動きだ
53才

日野市議会議員

西野まさひと

活動報告 号 外

ハッキリ言います! 市政にひとこと!

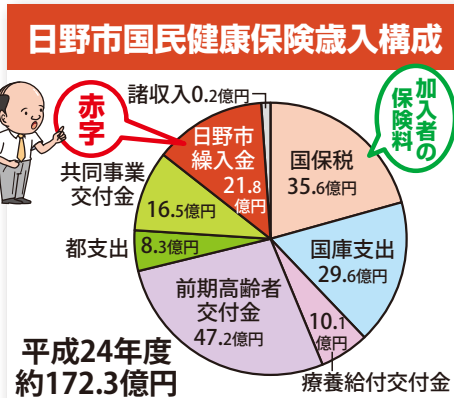
【ホームページもみてね!】<http://www.nishino1.com/>



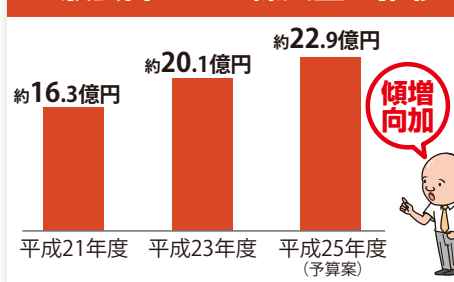
■ 西野まさひと友の会では、日野市のかかえる政治課題のうち、国保関連・健康福祉施策について特集し、ご報告します。

日野市の国民健康保険の保険者は、自治体である日野市です。この事業は特別会計で運営されていますが、不足分は市の一般会計から繰入金として補填されています。平成24年度の決算では、約21億8千万円を補填しており、国保事業の全体の約12.6%にあたります。この一般会計からの補填は、国保に加入していない方々が納めている税も用いられており「不公平である」との指摘は以前からなされており、なおかつ、年々増加の傾向にあります。市民の命と健康を守る「国保」は、制度の抜本改革の時期を迎えていると思いますが、地方自治の現場からも知恵を出し合い、超党派で改善に取り組む必要があります。

一般会計からの補填額が増加!



一般会計からの繰入金の推移



私達の健康を守るため、大きな役割を担う日野市の国民健康保険も、少子高齢化時代を迎え多くの課題を抱えています。本来、自営業者や農林水産業に従事する方々を主な対象としていた国保も、時代の変遷とともに被保険者の多くを年金生活者等無職の方々が占めるようになり、同時に高齢化に伴い医療費が急増しています。当然運営は厳しく、主に都市部の自治体は赤字運営が続いています。何度かの制度変更により状況が改善している自治体もありますが、日野市の状況は左の図のとおりです。

日野市の「国保」の厳しい現状

健康長寿社会の実現に取り組もう!

ジェネリックの普及促進

- 啓蒙・周知の徹底
- わかりやすい標語等の作成
- 市民主体のPR活動

各種健診の活用促進

- 啓蒙・周知の徹底
- 検診受診者への特典など受診促進への工夫

健康で病気になりにくい身体づくり

- 日野人四大運動事業の進化
- 楽しく運動できる環境整備 健康遊具の充実・遊歩道の工夫
- 運動のわかりやすい配信・啓蒙

健康で元気なお年寄りの社会参加

- 介護ボランティア制度の啓蒙
- ひのっち等、地域での活動の場を拡大

日野市議会議員 西野 正人

高齡化が進む中で、医療費の増加は避けられない問題です。昭和60年には約16兆円だった国民医療費は、平成12年には約30・1兆円、平成22年には37・4兆円へと増加しています。過去には小泉政権下の「骨太の方針2006」で、5年間で1兆1千億円を目標に社会保障費の削減や、診療報酬のマイナス改定、医療費の抑制、医療従事者増加の抑制が行われましたが、医師の過重労働などの弊害もおきています。現在の「薬偏重」の医療の在り方についても改革が必要ですが、これは政府に期待し、自治体ならではの取組みに注視し、充実させるべきです。他の自治体でも取り組んでいるのが、「予防」「適正受診指導」「ジェネリック医薬品の普及促進」等です。日野市でもすでにこれらの施策を始めていますが、まずはどこまで徹底して出来るか取り組んでまいります。

急増する社会保障費!

西平山から旭が丘へ！今こそ南北交通の幹線整備を！



道路予定地！
ここから旭が丘につながります

大坪市長に予算要望

西平山区画整理事業は、東平山1～3丁目、西平山1～5丁目の一部にて、平成4年に事業認可され、平成11年から工事が始まりました。この区画整理事業地内を東西に横切るのが日野3・3・2号線(日野バイパス延伸部)で、20号バイパスから分岐して圏央道高尾山ジャンクションへと続く予定です。将来、日野市の重要な幹線となり、東西方向の交通の要となるでしょう。

私は、日野バイパス延伸部と直交する道路(区画整理事業で整備予定)を、北側の工業地帯の道路と連結させ、南北幹線道路を整備すべきであると提言し、自民クラブにて平成24年度の予算要望を提出しました。



私達は、馬場市政のもと幹線道路が整備され、「道路整備が如何にあるべきか」を改めて肌で感じました。しっかりとした土台や骨組みがあつて、安心して住める家建つように、街の基盤として幹線整備は重要です。河岸段丘によって台地の上下に区分されている日野市の立地では南北の交通路がさらに重要です。西平山と旭が丘を結ぶ南北道路(日野3・4・24号線)は、元々、都市計画道路に指定されていましたが、整備は行われてきませんでした。西平山の区画整理事業が進行中の今こそ整備を進めるべきです。

日野市では自民クラブの要望を受け、この道路の整備を決定しました。

福祉の充実と産業育成とのバランスが大切

急激に増加する社会保障費を削減することはそうたやすくできません。むしろ産業育成を強化し税収を増やすなど、バランスの良い街づくりが大切です。

日野市を取り巻く環境で大きな変化がおきています。圏央道は急ピッチで整備が進んでおり、平成26年度中に東名道まで開通し、東名道・中央道・関越道と連結されます。今後、平成26年度中に東北道と、平成27年度中に常磐道と次々に開通し、もはや都心を通らなくても物流が成立する時代が来ます。

流通の変革により新たな都市間競争が起っています。これに即応した基盤整備を行わなければなりません。

八王子市では早くも圏央道の地の利を活かした物流センター開設計画が進行中です。ものづくり産業で高い潜在能力を持つ日野市の特性を活かすためにも戦略的な基盤整備が欠かせません。まずは、「日野バイパス延伸部」が必須であり、市内のバイパスと主要工業地とを結ぶ、前述の「日3・4・24号線」の幹線整備が大切です。

至東名道平成25年度中に開通目標

日野バイパスの早期開通を！